

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和6年1月24日 No, 30 文責 山地

第3回学校応援団会議を開催しました

1月17日(水)に、「第3回学校応援団会議」を行いました。

応援団員(学校運営協議会委員)の皆様には、5時間目の授業の様子を参観していただき、桑っ子たちの学びの姿を見ていただきました。



【授業の様子①】



【授業の様子②】



【授業の様子③】

授業参観後、音楽室で「第3回学校応援団会議」を開催しました。



【応援団長の挨拶】



【会議の様子①】



【会議の様子②】

校長からは、元日に発生した能登半島地震に触れ、子供たちにとって安心・安全な学校を目指していくこと、これまでの教育活動の振り返りについて話をしました。

応援団長の松井さんからは、「先生たちが気づいていない地区での子供たちの様子を伝えていくことで、子供を知る機会にしたい。」という挨拶をいただきました。

協議事項では、12月に行われた後期の学校評価の分析と考察について、教頭から次の5点から説明をしました。

- ★ 函南スタンダードについて
- ★ つけたい資質・能力について
- ★ 子供たちの様子について
- ★ 学校(先生)の様子について
- ★ 教師の指導並びに学校の管理体制について

【学校応援団会議で出された応援団員の意見】

- ◆桑村小の子供たちは、十分本を楽しんでいるのではないかと思う。冬休み前にはたくさん本を図書室から借りていた。そのことを当たり前だと思っているのではないか。質問の内容を「本を借りていますか。」や「本を読んでいますか。」にするとよい評価になるのではないか。
- ◆「読書を楽しむ」は昨年のデータとほぼ同じであるので、問題だと思わない。前期の評価が高すぎたのではないか。ふるさと「函南」のよさを見つけるのは難しいのでは。町内小学校のデータも気になる場所である。桑村小学校の子供たちは、ふるさとの意識は高いのではないか。
- ◆地域のよさを知るとのことだが、地域の行事が少なくなっている。子供たちが一番喜ぶ行事はお祭りなので、力を入れていきたいと思っている。大竹区では、子供をもつ母親から、「今の子供たちはお祭りに行っても何もなくてかわいそうだ。自分たちの頃には楽しみがあった。自分たちでできることをしていきたいがどうか。」との相談があり、2月に子供が楽しめるようにお祭りを企画している。金魚すくいやくじなど続けていけそうなことを考えている。お祭りがなくなってしまった他地区の子供たちにも来てほしいので、学校でも祭りがあることを案内してもらえるとありがたい。
- ◆学校の楽しさは学業にあるのだと思う。桑村小学校は人数が少ないので、やればできるのだと思う。自分もそうだったができたという達成感があるとやる気が出る。子供に合った指導をしてほしい。
- ◆特色のある学校という言葉があるが、桑村小学校の「読書活動への扉を開く」の取り組みは、昨年度57号、本年度は77号も発行されていて素晴らしい。読書については、函南町で1番になれるのではないか。ぜひ来年度もつなげてほしい。
- ◆学校で学習しないことを、子供たちはゲームの中で行っている。ゲームの中で海外の人と対戦しているという話をきいた。コミュニケーションもゲーム用語を使うことで交流できているとのことである。今の子供たちにはそれができる力があることを大人も知っておく必要があると思う。
- ◆学校で学ぶような一般的なことは苦手としていてもひとつのことに特化したスペシャリストになっているということなのだろう。学校で学ぶことはもちろん大切だが、これからの時代は、スペシャリストが求められていることも事実だろう。
- ◆来年度よりPTA役員の人数を減らすことになっている。ボランティア中心の活動にしていくので、アプリの登録をしてもらっているところである。活動の継続を考えるとPTAと応援団が連携しながら活動していく必要がある。PTAの監査にも応援団が入っている。
- ◆子供にとって危険な行事はなくなっていく傾向があるという話があったが、原生林探検は残してほしい。

応援団員の皆様、貴重な意見をいただきありがとうございました。今後の教育活動に生かしていきます。